

Q.

運用を考えないことは「リスク」とはどういうことですか？

A.

長引く低金利によって、預金などでは資産を増やすことが難しいなか、物価の上昇や社会保険制度の見直しなどで支出が増加してしまう可能性があるからです。

昨今、日本でも本格的なインフレ（物価上昇）の波が押し寄せています。一方、2023年7月に日銀がイールド・カーブ・コントロールの柔軟化を発表して日本の長期金利は上昇しつつありますが、当面は現在の大規模金融緩和政策の継続が見込まれており、預金等の低金利は長引きそうです。こうした中で運用を考えずにお金を金融機関にそのまま預けておくと、お金の価値の実質的な目減りなどが懸念されます。

2024年1月から新しいNISAが導入される等、資産運用を後押しする動きがある一方、今後も社会保険制度の見直しや増税等は予想され、家計にとって一段の負担となる支出増についても考慮する必要があります。このため、**今ある資産を守るためにも、運用を考えないことはリスクとなりそうです。**

家計の資産を取り巻く環境のイメージ

大切な資産を守るために
運用を考えないことはリスクの時代に

預金等においておくこと自体がリスクとなる可能性も……。今ある資産を増やしていく検討も必要です。

収入等の減少

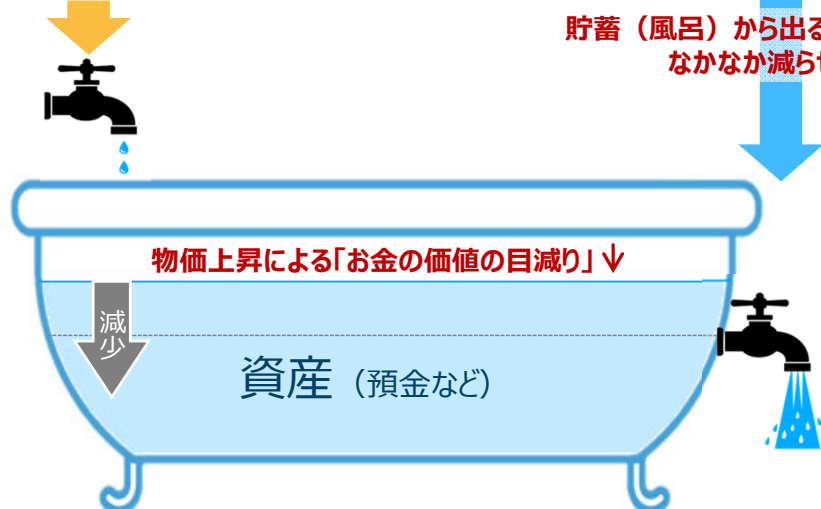
- 賃金の伸び悩み
- 長引く低金利による受取利息の減少
- 年金給付水準は長期的に目減り？

貯蓄（風呂）に入れられる資金（水）が減る要因に

支出等の増加

- 様々なモノの値上がりによる生活費の増大
- 高齢化の進展に伴う医療・介護費用の負担増
- 社会保障費の増大に伴う保険料の引上げや増税

貯蓄（風呂）から出る資金（水）を
なかなか減らせない



（注）上記はイメージです。家計により異なることがあり、またすべてを記載したものでもありません。

（出所）各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※この資料の最終ページの「重要な注意事項」を必ずご確認ください

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

＜ご留意いただきたい点＞

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただけます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込む等のリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行店頭の商品の説明書等を必ずご覧ください。



三井住友銀行

株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会 / 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会